

## 委員からひとこと

合併協議会において、日夜、熱心に御議論・御検討をいただいている委員の皆さんから、委員就任にあたっての抱負や協議に臨む姿勢等について、コメントをお寄せいただきました。

(コメントをいただいたのは、1号委員及び府委員等の行政関係者を除く28名の方です。今回は、14名の方のコメントを紹介します。)

〈順不同〉



上野嘉雄委員(園部町)

社会情勢の急激な変化と共に、地方行財政は益々厳しくなってくると思われます。時代や社会の変化に対応できる行財政の効率化と、時代のニーズに合った住民サービスを基本にした自治、京都府中部地域の拠点としての役割を担い、4町の特徴と独自性、美しい自然環境を生かした、「住みやすい」「住みつけたい」町づくりの実現に、合併の論議を深めて行きたいと思っています。



川勝儀昭委員(八木町)

財政面が厳しくなるという理由だけで合併するのではなく、より良い町づくりのために合併しなければならないと思います。何のために、誰のために合併するのかを住民一人一人が考え、4町にとって本当に良かったなと思える合併を進めなければなりません。住民が痛みを伴わず、一極集中型でなく、将来に遺恨を残さない本来の対等合併と地域の独自性を生かした、ゆるやかな合併を望みます。



藤岡裕英委員(白吉町)

少子高齢化の進展や構造改革が求められる日本経済など、時代が大きな変革期を迎えている今、合併は、地域の将来や住民の生活に大きな影響を及ぼす問題であるといえます。協議会の場においては、各地域がこれまで育み培ってきた個性や特徴を大切に活かしつつ、安心して生活できる住みよいまちづくりが実現できるよう、協議・検討してまいりたいと考えています。



上原正義委員(美山町)

「新しい時代の扉を開く」こんな思いで協議会に参画しています。高齢者が安心して老後が送れ、若者が明るい希望を持って暮らせる新市になるように、そのためには、産みの苦しみや痛みのみで固執しては展望が開けません。産業、福祉、医療、教育、交通等が新しい時代の変化に対応でき、より充実・発展への階段が一段一段昇れますよう、強く懇願しつつ微力を尽くしたいと思います。



中川圭委員(園部町)

合併後の旧町が一定の自治権を持つ「分権型合併」、自治区に地域振興基金を創設して予算を確保し、まちづくりを進める「多極分散型合併」等、合併は、自立機運を盛り上げ、地域を活性化し、ユニークな自治体をつくるチャンスと捉えています。地域の歴史・文化を尊重しつつ、住民に身近な教育・福祉を議論し、将来に明るい展望が開けるまちづくりが実現するよう、責務を果たしたいと考えています。



高橋芳治委員(八木町)

地方分権時代が本格的に到来し、自治のあり方が問われる中で、効率的・効果的な行政運営の有効な手段として「合併は避けて通ることが出来ない大きな課題」であり、歴史に残る一大事業をどう成し遂げるのか。協議会委員として、今、何をなすべきか、考察したとき、合併問題について真正面から真剣に取り組み、課題解決に向け、最大限の努力を傾注してまいりたいと考えております。



井尻治委員(白吉町)

福祉と教育の充実は最大のテーマであります。多様化する住民ニーズに対応できる、高度な政策能力を備えた自治体を形成し、公平な行政対応により、均衡ある発展を目指さなければなりません。また各4町の永い歴史と文化を重んじ、継承することで、新市の魅力として生まれ変わるのではないのでしょうか。大変重要なこの期に参画できる一人として役割を果たしたいと思っています。



柿泊義昭委員(美山町)

社会情勢の変化に伴い、地方分権・税源移譲を実現し、その地域の特性を生かした住民主体の町づくりを行うことが今求められています。合併を考える時、各々の町の特性をお互いに理解し、将来に亘って、住民が安全で安心して生きがいをもって生活できる安定した新しい町のかたちを創るため、頑張りたいと考えています。



滝村尚史委員(園部町)

今回の合併論議の中で最も気をつけなければならないことは、行政サービスを受ける側の民、提供する側の官、そして国もしくは地域社会の三つのバランスだと考えます。近江商人の言い伝えを合併に置き換え、『民よし・官よし・社会よし』の『三方よし』のバランス感覚を常に持ち、膨大な量である合併調整項目に対し、その視点から慎重かつ情熱を持って向かい合っていきたいと考えています。



谷幸委員(八木町)

合併問題は、時の流れの中で避けては通れない問題だと思います。長い間に培われた政策の違いはあると思います。そのような中でも、各町の特徴を生かし、人と人との交わりの暖かさを大切にしていきたいものです。将来に悔いを残さないよう、町民一人ひとりが関心を持っていただき、魅力ある市となるよう、住民の皆様と共に考えていきたいと思っています。



藤林芳朗委員(白吉町)

財政課題を含めて、厳しい社会経済情勢の中での「新市づくり」。4町がこれまで取り組んできた「まちづくりの理念」を尊重し合って、互いに協力しながら、さらに発展させる方向で、次の世代に夢のある「新しいまち」をつくらなければならないと思います。その為には限られた時間の中で、何を継承し、何を改めていかなければならないかを充分検討していく事が重要であると考えています。



大牧義夫委員(美山町)

「合併問題は、避けて通れない重要な問題である。」という発言をよく聞いてきました。その協議の場の末席を担う責任性を痛感しています。市や町は、それぞれの歴史的な経過を経て、今日の実態を創り出しているものと考えます。従って、それぞれの特徴を持ち備えているといえます。その特徴を継承し生かしながらも、新たな特徴をも創造していく視点を大切にする姿勢で臨んでいきたいと考えています。



村田憲委員(園部町)

4町合併協議会がいよいよスタートをしました。私は建設・産業・上下水道の小委員会に所属をして、関連する個々の項目について検討をする事になっております。基本的には現行のサービスを低下させる事のないよう調整をする。そう申しても我田引水にならぬよう、大所高所から判断をして行きたいと思っています。多くの町民の方々のご意見を私にもお寄せ下さい。お待ちしております。



吉見徳寛委員(八木町)

私が「4町合併」の委員として、この任にあたる事となり、心新たな思いをいたしております。今日までの諸先輩が築かれ進められてきた「町づくりのための施策」を見直し、新たな「市」のあり様を考える事となりました。先ず、私の心に「鬼になること」「譲り合う心」を持ち、協議に臨んで参りたいと思います。将来住んで良かったと言える「新しい町づくり」に全力投球で頑張ります。